

「水と生きる」企業として、水の循環に負荷をかけない事業活動の実現をめざします

「水のサステナビリティ」の実現をめざします

サントリーの主な事業は水や農作物といった自然の恵みに支えられています。「水と生きる」企業として、循環型社会の構築に貢献するために、サントリーでは、水を育む森を守り、水を大切に使い、きれいにして還す活動を強化しています。

水を育む森を守る「水源涵養活動」を全国で展開しています

水を育む森づくりは、かけがえのない地下水(天然水)の持続可能性を守るための活動です。

サントリーでは、2003年から工場の水源にあたる場所を中心に、国(林野庁「法人の森林」制度)や自治体と協働して「天然水の森」と名づけた水源涵養活動を全国で展開しています。2008年5月に竣工した「サントリー天然水(株)奥大山ブナの森工場」近隣の森林でも保全活動の契約を締結。これにより、森林保全活動は全国8府県9カ所の森にまで拡大しました。

サントリーが行う森林保全活動は、水資源の涵養力を高めることを主目的としていますが、加えて、地球温暖化対策や生態系の保全など、多様な効果が期待されており、今後も順次涵養エリアを拡大していく計画です。

研究機関、地域社会と連携した保全活動を推進

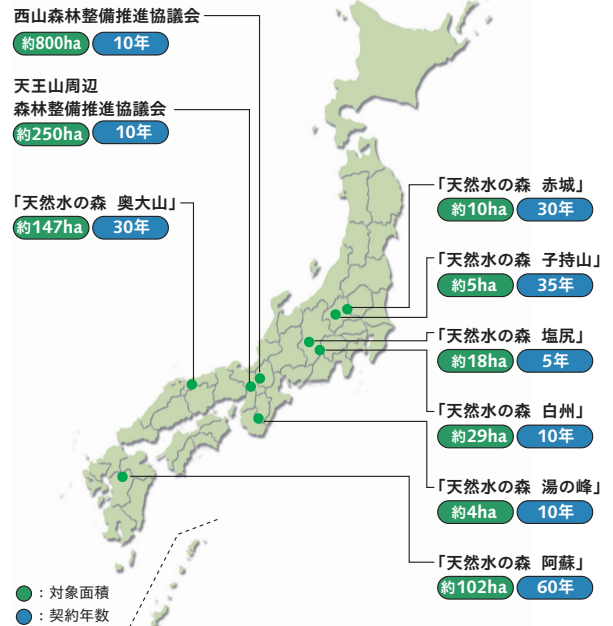
地域特性に応じた水源涵養力の向上を図るために、エリアごとに大学などの研究機関との共同研究による科学的根拠に基づいた活動の展開を図っています。

また、大阪府と京都府にまたがる天王山周辺、京都府長岡京市西部に位置する西山の保全・整備については、行政・学識経験者・所有者・地域住民・ボランティアなどの関係者と「天王山周辺森林整備推進協議会」「西山森林整備推進協議会」をそれぞれ設立し、森林整備や森林環境教育などの活動に取り組んでいます。

社員による森林保全活動

「天然水の森」の森林保全活動には社員も積極的に参加しています。2007年度はサントリー「天然水の森 阿蘇」をはじめ全国6カ所で実施。グループ社員とその家族285名が参加しました。

■水源涵養活動の状況



「天然水の森 阿蘇」



社員による森林保全活動

水を大切にするために水の使用量の削減を徹底しています

サントリーの工場では、商品の原料として使用する水以外にも、製造工程でタンク・配管などの洗浄や冷却用などに多くの水を使用しています。限りある水資源を大切にするために、工場の水使用量の削減に中期目標を設定。水の再利用・循環利用技術などの導入により、水資源の有効活用に取り組んでいます。2007年度は、生産量増加にともない水使用量は微増となりましたが、一層の節水活動を進めることにより原単位は減少しました。

水の「ピンチテクノロジー」の導入

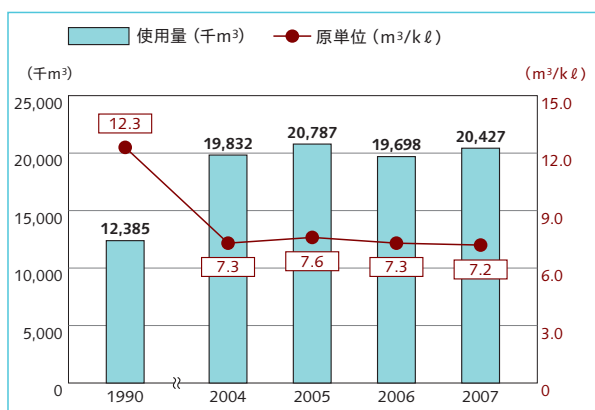
工場における水再利用の手法として、サントリーは水の「ピンチテクノロジー」を導入しています。

サントリービバレッジプロダクツ(株)神奈川綾瀬工場では、ピンチテクノロジーや水の循環利用により、用水使用量原単位で業界トップレベルを達成しています。また、武蔵野ビール工場では、一度使用した後の水について細かく解析し、用水利用の最適化を図りました。具体的には、ビール醸造で使用するタンクの洗浄に用いた水を回収し、膜ろ過装置で清浄度を上げて他の工程用にリサイクル。水使用量削減に役立てています。

雨水も有効活用

降水量の多い日本では、雨水も大事な資源です。サントリーは雨水をタンクに貯めて、植栽への水やりや空調機械の冷却水などに利用しています。

■用水使用量



※原単位は製造1kℓあたりの使用量を表します



サントリービバレッジプロダクツ(株)神奈川綾瀬工場

排水管理を徹底しています

サントリーでは、排水をできる限り自然に近い状態で還すために、法律よりも厳しい自主基準を設定し、水質や水温などの排水の品質を徹底管理しています。工場から排水される水は、嫌気性排水処理システムなどで浄化処理された後、24時間体制での監視のもと、下水道や河川へと放流しています。

東京大学と「水の知」(サントリー)総括寄付講座新設

サントリーは、国立大学法人東京大学と水に関する研究を推進するため、2008年4月より「水の知」(サントリー)総括寄付講座※を新設しました。同講座は、学、民という立場でそれぞれ水問題に取り組んできた東京大学とサントリーとが協働することにより、「水の知」を構造化して社会に発信し、水に対する社会的な関心を高め、水問題の解決と豊かな水環境の創成を推進することを目的としています。さらには、「水」というテーマで、文理融合した学術分野における研究者育成を図っていきます。



※個人や団体の寄付による基金、寄付金などでその基礎的経費をまかなう研究部門のうち、複数の部局にまたがる研究・教育・プロジェクト

Web 自然との共生「水資源の保全」